文化学園服飾博物館だより

Vol. 20
2007.4.1

● 新収資料の紹介 ●

昨年度、服飾博物館に新たに加わった資料の中から一部をご紹介します。

能装束　江戸時代

左：蛇籠、流水に桜文様縫箔
右：柳に露文様摺箔

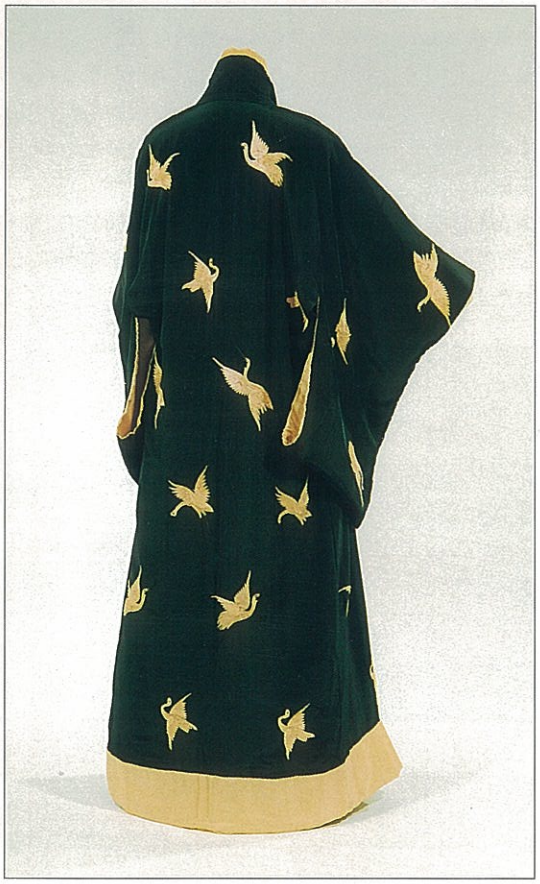
左は「縫箔」、右は「摺箔」という能装束で、いずれも女役が表着の下に着用する。「縫箔」は文様を縫（刺繍）と摺箔で、「摺箔」は摺箔だけで表すもので、技法の名称がそのまま装束の名称となっている。

「縫箔」は、蛇籠が沈められた水の流れに桜の花が浮かぶ春の情景を絵画的に表している。これに対して、「摺箔」は露の宿る柳の葉を題材とするが、デザイン化したモティーフを上下左右に連続させて表現している。いずれも身のまわりの草花や風景に美を見出し、それらを文様としてきた日本人の美意識を示している。

トルクメニスタンの装身具

左：護符入れ：トゥマル　20世紀初め　トルクメニスタンまたはカザフスタン
右：耳飾り　20世紀中頃　トルクメニスタン　ヨムート族

トルクメニスタンはカスピ海の東側に位置し、大部分の人たちがイスラム教を信仰する。女性用の銀製装身具は独特のデザインで知られ、文様や技法は部族によって異なり、鍍金が施されることもある。遊牧生活を営むため、これらの装身具は身につけて持ち運ぶ財産であり、また外敵から身を守る魔除けの意味も持つ。装身具は頭、首、耳、背中などあらゆる部位につけられ、災いから身を守るとされる紅玉髄が多く使われる。



室内着　1905年頃　ババーニ作　フランス

黒地にシャーベットオレンジの刺繍による飛鶴と、裾の色合いが鮮やかなきもの風室内着。ヨーロッパではジャポニスムの影響で、1900年頃からきものをそのまま羽織ったり、きものの形を活かしたデザインが室内着やドレスに取り入れられた。本資料は全体に綿を入れ、裾は厚みをもたせて打掛を真似ているが、衽を付けず、肩で縫い合わせるなど室内着として着やすいように仕立てている。ババーニはパリにアジアの物品を販売する店を持ち、きもの風室内着は自らのアトリエで作らせ1904年頃から扱った。

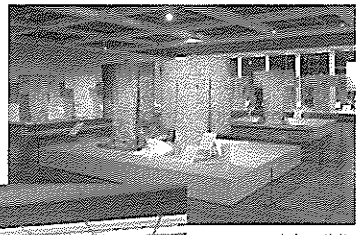
「異国趣味
ヨーロピアン・ファッションにみるエキゾチシズム」
4月20日～6月10日

本展では18世紀から20世紀にかけてヨーロッパに現れたジャポニスム、オリエンタリスムなどに代表される異国とのかかわりが、ファッションに与えた影響を紹介しました。18世紀から19世紀にドレスの生地として広まったインド産の更紗、20世紀初めに流行した日本の着物の形がデザインされたドレスなど、その元となった国の衣服や染織品などを合わせて展示しました。また、文化学園図書館所蔵の貴重な文献や、文化学園ファッションリソースセンター所蔵のケンゾー、ヨウジヤマモトの異国趣味を取り入れた作品などを交え、展示に広がりをもたせました。観覧者からは、東西の文化交流について参考になったなどの感想をいただきました。

写真上：19世紀の更紗のドレスとインドの染織資料
写真下：1910年代のきもの風ドレスと日本の着物

「夏のきもの　江戸時代～昭和時代」 6月29日～10月6日

夏のきものには、高温多湿な日本の夏を快適に過ごすためにさまざま工夫がこらされています。通気性にとんだ薄い生地や透けた生地、肌ざわりのよい生地などが選ばれ、色や文様などにも涼しさが感じられるような演出が見られます。これらの夏のきものの特色と共に、大正時代から昭和初期にかけてのきものの着装の再現や、夏のきものの生地の材料学的な実験の結果や文化ファッション大学院大学の学生が制作した浴衣地のドレスも紹介しました。本展を通じて、自然と共生し、季節感を大切にする日本人の暮らしぶりが改めて認識されたようです。



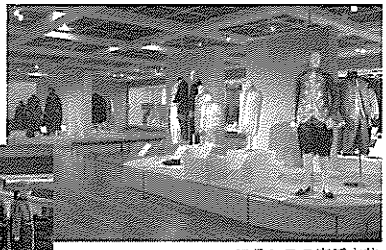
武家の着物

大正時代から昭和初期の着装の再現

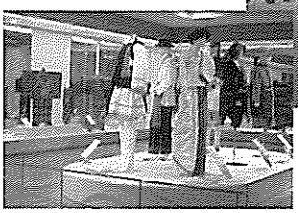
TOPICS
講座「夏のきものの着こなし」を開催
講師＝三浦篤子・文化学園F.R.C.コスチューム資料室長、協力＝鈴乃屋
NHK教育テレビ「新日曜美術館」アートシーンに取り上げられました。

「おとこのおしゃれ　世界の男性衣装に見る美意識」
10月18日～12月20日

日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、中南米の約30の国と地域から男性の衣装だけを集めて展示しました。
第１室では世界の男性衣装を儀式、日常、戦い、祭りといったシーンで大別して紹介しました。第２室は「スーツにみる美意識」と題して、現代男性のファッションの基本となっているスーツが成立するまでの歴史と、銀座の老舗テーラー壹番館洋服店にご協力をいただき、テーラードスーツの製作過程を紹介しました。また文化服装学院を卒業しメンズファッションの分野で活躍中の４人の作品も展示しました。男性のファッションに対する関心がここ数年で急激な高まりを見せる中でのタイムリーな企画であったと各方面から好評をいただきました。



フランスの宮廷衣装

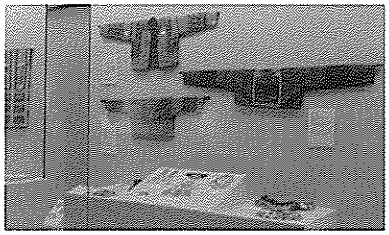


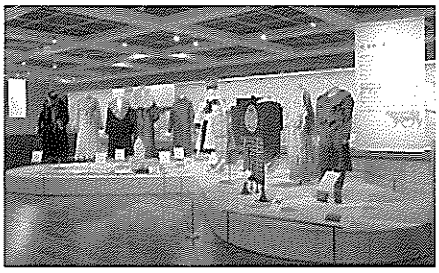
各地域の祭礼衣装

TOPICS
文化ファッション大学院大学との共催でシンポジウム「メンズウエアのクリエイションとテクニック ― 若手スチリスト達の仕事」を開催しました。

「動物からの恵み　服飾のなかの動物素材」
´07年1月17日～3月14日

本展は、さまざまな動物素材を「毛皮・革」「角・牙」「貝」「鳥」などの素材に分け、約40か国、300点余りの衣服や装身具を紹介しました。ヨーロッパの毛皮のコートや鳥の羽根で飾った帽子、貝を使った東南アジアの装身具や衣服、魚の皮を使った極東地域の衣装など、動物素材の優れた特性や風合いを生かしたさまざまな展示品に、観覧者からは驚きの声が寄せられました。またいろいろな絹織物や、本物にひけをとらないフェイク･ファーなど、実際に布の感触を確かめるコーナーは楽しく見学していただけたようです。特別展示室では文化服装学院の学生によるファッションショーの作品のなかから、動物素材を使った衣装も紹介しました。



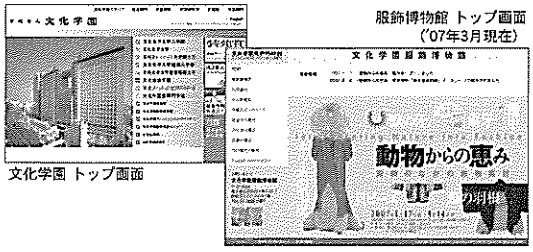


写真上：貝を使った東南アジアの衣装と装身具
写真下：各地の毛皮と革の衣装

TOPICS
NHK教育テレビ「新日曜美術館」アートシーンに取り上げられました。

ホームページをリニューアルしました

服飾博物館のホームページをリニューアルしました。お問い合わせの多い開催中の展示情報をトップページにのせ、すぐに分かるようにしました。今までの展示やこれからの展示なども左端のメニューバーからご覧いただけます。今後、最新情報のページもさらに充実していく予定です。学校法人文化学園のホームページよりご覧ください。http://www.bunka.ac.jp



文化学園 トップ画面

服飾博物館 トップ画面
（'07年3月現在）

当館所蔵資料の集成、叢書「世界の服飾・染織」

『西アジア・中央アジアの民族服飾 —イスラームのヴェールのもとに—』刊行

2006年4月の初刊『三井家のきもの』に次いで、12月には上記を刊行しました。当館はパレスチナを初めとする多くの西アジアの優品を収蔵しておりその中から選択、掲載した資料により、この地域の服飾・染織文化の特色を把握、概観できます。当館学芸員による論考の他に学際的な視点も採り入れ、文化人類学からの考察も加えました。文化女子短期大学卒、中央アジア服飾研究者の加藤定子氏も執筆者の一人です。本書は当館でお求めいただけます。

A4変型判、
カラー76ページ、モノクロ32ページ、
装丁とレイアウトは松本章・文化女子大学教授
2,000円（税込）

館外の展示への協力・・・服飾博物館所蔵資料を貸出し、館外の展示に協力しました。

●「シルクロードをめぐる美の物語Ⅱ　ー中央アジアの装飾と衣装からー」

10月13日～23日にかけて、ミキモトホール（ミキモト本店・銀座）で「シルクロードをめぐる美の物語Ⅱ」が開催されました。この展覧会はミキモトがシルクロードをテーマとしたジュエリーコレクションを展開することに合わせ、文化出版局『ミセス』との協力で企画されたものです。去年に引き続き２回目となる今回は、中央アジアと周辺国の衣装と装身具、工芸品など46点を出品しました。

「シルクロードをめぐる美の物語」展 より

● 「メーク×モード　ビューティーの時代」・・・イヴニング・ドレス ２点
6月8日～9月8日　会場＝ハウス オブ シセイドウ

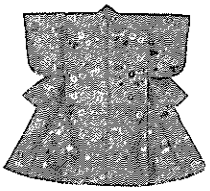
● 「隠された顔：日本の仮面」・・・・能装束 ２領
9月７日～11月5日　会場＝アジア文明博物館（シンガポール）　主催＝文化庁

● 「ハギレの日本文化誌」・・・仕事着 他 ５点
9月9日～10月15日　会場＝福島県立美術館

● 「KATAGAMI －日本の型紙とジャポニスム」・・・小袖 １領
10月6日～１月７日　会場＝パリ日本文化館（フランス）
主催＝国際交流基金 他

● 高松宮殿下記念世界文化賞授賞式
レセプションのための展示・・・小袖 ３領
10月18日　会場＝明治記念館　主催＝財団法人 日本美術協会

イヴニング・ドレス

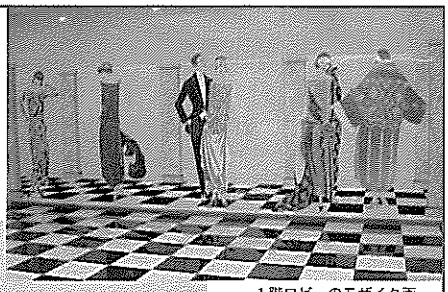


能装束

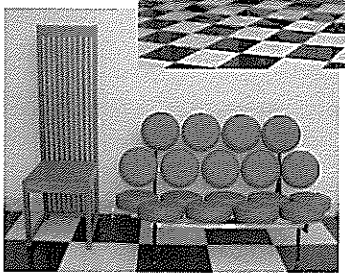
高松宮殿下記念世界文化賞授賞式レセプション より

服飾博物館のロビーと椅子

皆様をお迎えする服飾博物館のロビーは、白と黒を基調としたモダンな空間です。壁面のモザイク画は、種々の大きさと形に切断された色大理石をはめ込むオプス・セクティレ技法によってフィレンツェで制作されたものです。文化学園の母体である文化裁縫女学校が創設された1923年当時のフランスのファッション誌『アール・グー・ボーテ』の中のイラストをもとにしています。また１階ロビーと２階検索コーナーに置かれた椅子は、フランク・ロイド・ライトやマッキントッシュなど、20世紀を代表する建築デザイナーの作品です。それぞれの椅子をおためしいただいたり、モザイク壁画をバックに来館の記念写真をお撮りいただくなど、展示見学後の時間をゆったりとおくつろぎ下さい。



１階ロビーのモザイク画



左：ハイバック・チェア
フランク・ロイド・ライト作
右：マシュマロ・ソファー
ジョージ・ネルソン作

´07年度 展示のご案内
Exhibition Schedule

4月19日～6月13日

【ヨーロピアン・ファッション　1760－1960】

ヨーロピアン・ファッション200年の歴史をたどります。近年注目されている18世紀ロココ時代を特集し、華麗な宮廷衣装を中心に新収品を含む館蔵品の多くを展示します。ロココ時代の細いウエスト、ふくらんだスカートの女性らしいスタイルは、その後も何度か流行に取り入れられています。しかし、ただ過去を模倣するのではなく、社会的背景や美意識の変化など、その時代のさまざまな要素が反映され、新たなものが生み出されてきたことが読み取れるのではないでしょうか。

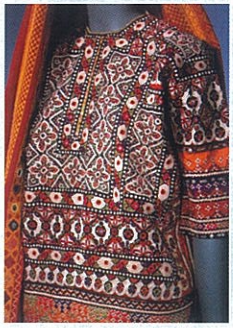
ローブ・ア・ラ・フランセーズ
1760-70年頃
イギリス

ドレス　1948年頃
ディオール　フランス

10月17日～12月18日

【世界の刺繍 －技と心－】

刺繍は古くから世界各地で行われてきました。針と糸を使い、布の上に自由に模様を描くことで生み出される表現からは、それぞれの地域で異なった美意識を感じ取ることができます。四季の情趣を見事に表現した日本の刺繍、アジアやアフリカ各地の生活観や願いがこめられたぬくもりのある刺繍、オートクチュールの熟練の技が生み出すヨーロッパの華麗な刺繍など、さまざまな地域の刺繍の美をその技法とともに紹介します。



女性用衣装（部分）
20世紀初め　パキスタン

打　掛　　江戸時代後期　三井家旧蔵

7月3日～9月22日　（＊夏期休館　8月12～19日）

【絹ものがたり －日本の伝統服飾にいきづく絹文化－】

日本人と絹、そのかかわりは深く、正倉院の遺物にも例を見ることができるように古くから衣服の材料として使われてきました。羽二重（はぶたえ）、縮緬（ちりめん）、綸子（りんず）、緞子（どんす）、唐織（からおり）、紗（しゃ）、羅（ら）をはじめ絹織物に対する言葉の多さからも、その発展がうかがえます。展示では着物、宮廷装束や能装束など日本の伝統服飾の中の特徴のある絹織物を紹介しながら、その多様性をみていきます。また、信州大学・繊維学部にご協力いただき最先端の絹、蚕（かいこ）の研究についても紹介します。

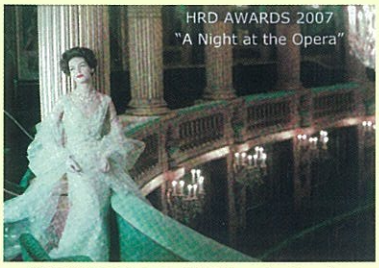
唐　織　　江戸時代後期　井伊家旧蔵

黄櫨染御袍裂　　江戸時代末

´08年1月25日～3月15日

【オペラ座の夜 －アントワープ・ダイヤモンドジュエリー HRD賞 コレクションとイヴニング・ドレス－（仮題）】

ベルギーは世界のダイヤモンド産業の中心地の一つです。この国のダイヤモンド業界を総括するアントワープ・ダイヤモンド・ハイ・カウンシル（HRD）は、1984年以来ジュエリーコンクールを開催し、ダイヤモンドの魅力を最大限に生かし、独創性に富み、洗練された技術で制作されたジュエリーを選出してきました。2007年、「オペラ座の夜」というテーマのもとに制作された世界各国からの応募作品を紹介し、合わせて当館所蔵のイヴニング・ドレスを展示します。



HRD AWARDS 2007　" A Night at the Opera"

イヴニング・ドレス
1950年代
ディオール
フランス

＊上記の予定は都合により変更されることがあります。
＊各展示会期中、当館学芸員によるギャラリートークを行います。
＊金曜日の夜間開館日を設けています。（各展示会期中2回、19:00まで開館）
詳しくはお問い合わせいただくか、ホームページでご確認下さい。

Information

- 開館時間　10:00～16:30（入館は閉館の30分前まで）
- 休 館 日　日曜日、祝日、振替休日、展示替え期間
- 入 館 料　一般 500(400)円・大高生 300(200)円・小中生 200(100)円
  ＊( )内は20名以上の団体料金
- 交　　通　JR/京王線/小田急線　新宿駅（南口）より徒歩7分
  都営地下鉄 新宿線/大江戸線　新宿駅(新都心出口6)より徒歩4分
  （地下道出入口O-1に隣接）

文化学園服飾博物館
〒151-8529
東京都渋谷区代々木 3-22-7　新宿文化クイントビル
TEL. 03-3299-2387
学校法人 文化学園　http://www.bunka.ac.jp
文化女子大学／文化ファッション大学院大学／文化服装学院／文化外国語専門学校／文化出版局／文化学園服飾博物館

文化学園服飾博物館だより　第20号
編集・発行：文化学園服飾博物館